



NO. 601

編集発行人 田中幹夫
治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟

〒113-0034
東京都文京区湯島 2-4-4
平和と労働センター全労連会館内
電話 03-5842-6461
FAX 03-5842-6462
振替 00110-6-97793
定価 50円

青森県版

2024年7月15日発行

第 385 号

〒038-0904
青森市茶屋町11番5号
TEL 017-718-3166
FAX 017-718-3167

青森県本部

◆女性解放運動の先駆者―

永島暢子を偲ぶ『菊の花忌』（第十一回）開催

八戸市出身で東京を中心に女性の解放運動と社会運動で活躍した、永島暢子（よね・1897（1946）を偲ぶ、第十一回「菊の花忌」が、去る四月十二日に永島の菩提寺である八戸市長者一丁目の大慈寺墓園の永嶋家の墓所において行われました。

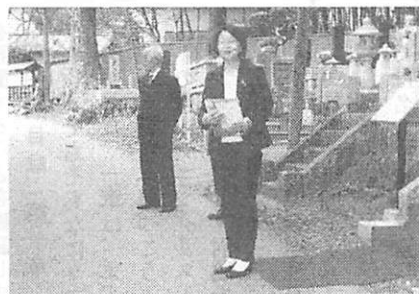
この日参加したのは、偲ぶ会会員はじめ八戸市民などで、僧侶の厳かな追悼読経のなか、参加者一人ひとりが焼香・合掌して永島暢子の功績を偲びました。

来賓として参加した青森県議会議員の田端深雪さんが「現在放送中の連続朝ドラ『虎に翼』の法曹界を目指す女性たちの、同時代を生き、その群像の先陣にふるさと

出身の永島暢子さんがいたことを誇りに感じながら見えています」と、永島暢子への思いをこめて挨拶をしました。

また、永島暢子の実家である永嶋酒店が所在した南部町の関係で、佐々木俊昭南部町副町長が来賓として「毎年この菊の花忌に参加し、わが町ゆかりの永島暢子さんを偲ぶことが、私の公式行事のスタートになっています」と挨拶しました。

最後に偲ぶ会内田弘志会長が「永島が亡くなった1946年に公布された日本国憲法には、永島が闘った女性解放運動の成果が盛り込まれている。永島の意志を受



挨拶をする田端深雪県議（4月12日）

け継いでいきたいと思います」と、謝辞を述べて第十一回菊の花忌を終えました。
（永島暢子を偲ぶ会副会長・江刺家均）

山毛櫟

▼今年も「ヒヨドリ」が
一月上旬から庭に飛来し
た・ピー・ピーと空間
を響き伝わる。昨年まで
は、集団で飛来していた

のが、今年は一羽か二羽毎日飛来してくるが、集団で飛来することは少ない。一月上旬から二月上旬頃までだったのが、今年は、三月二十九日まで。▼この日は、六〇七羽集団飛来して、それぞれ「リンゴ」を食べて飛び去っていった。この日を最後に飛来してくることはなかった。毎日「リンゴありがとう」「来年もお願ひ」と言っているかと想像をふくらませていく。四月近くまで飛来するのは、今年が初めて。気候変動のためなのか。▼いずれにしても毎日楽しませてくれた。平和でこそ、このような光景に会える。▼いま、日本は大軍拡で「戦争する国」へ進んでいる。平和な日本を築くために武力による脅しではなく、戦争させないための外交努力こそ今必要ではないか。
（新）



国賠同盟全国大会に参加して―



六月十九日、二十日、東京御茶ノ水の全労連会館にて、全国大会が開催されました。

初参加の私に、事前に耳に寄せられたのは「大先輩達が集う」ということで、その言葉通り、九十歳を越えてなお力強く発信する姿がありました。

吉田万三会長は「自民党裏金問題のウラで、大軍拡が進められている」と挨拶。共産党からは、山添拓参議院議員が来賓挨拶で「憲法を語らない政府は曲がり角にきている」と断じました。そして講演は、一橋大学名誉教授・渡辺治氏です。「戦争と暗黒政治」を目指す岸田政権は、まだ止める事が出来る」と話され「その希望はまだある」と、圧倒的な歴史の流れを淀みなく語り、心に残りました。

翌日の各県代表の発言では、伊藤千代子「わが青春つきるとも」上映の実績にて、会員の拡大が出来たことをあげています。東青支部でも「ジェンダーカフェ」を開催しました」と発言。急な飛び入りにもかかわらず、機会を得られ、さすが国賠同盟と感じ入りました。

なんとといっても、懇親会では大ス

クラムを組み、中央合唱団の力で、「わが母のうた」「がんばろう」を歌い上げ、連帯が響き渡った会となりました。

(東青支部 松橋慶子)



2024年6月6日 国賠同盟東青支部 第1回「ジェンダーカフェ」開催

支部では、青森市民企画展にテーマを決め参加してきました。(憲法学習、新しい戦前にさせない、平和と人権を訴えた女性たちから学ぶなどをテーマに)

民法の家父長制度の強い拘束が、とりわけ政治や経済の分野で、日本のジェンダーギャップ指数によって国際的にも日本の後進性が明らかになりました。そうした中で「ジェンダーの勉強がしたい」という声が上がりました。また、教材にしたい「あなたと学ぶジェンダー平等・坂井望著」が出版されたこともあり、「カフェの形でやろう」ということになりました。これまでに市民企画展に参加した人

たちにも声をかけ、参加を確認した人は十一人でした。

当日は七人が参加。自己紹介後▼各章ごとにチューターを決めて進める。▼六月から偶数月の第一木曜日の十時〜十二時。▼事務局を設置するなどを確認しました。

第一回目は「第一章 ジェンダーってそもそもなに？」からはじめました。一章は、まず九ペー ジ読み、資料「気づこう！ジェンダーの壁」チェックリストを各自 チェック後、フリー討論をしました。「女性の間ではジェンダーと名前が付いた事で話題性が広まった。男性の声は聞こえないが...。一緒に勉強の場があればいい」「学校では名簿は男性が先」「女のくせに政治の話はするな」「各種手当も世帯主に支給対象で、主たる生計者に婦人部(当時)で変えさせた」「政治の矛盾を感じてきた。母は本を読んでいて、これからは女も教育が必要だ」「自動車整備の男性職場で勉強して整備士の資格を取った」「女性の自立の為に技術を身につける必要があった」「職場のいろいろな矛盾を感じた。一人でも入れる組合に入り、その後職場に労働組合をつくった」「年金組合で調査した女性の低年金が話題になった」「女性は結婚すると専退社、子育てが一段落し、再就職すると非正規。M字カーブの賃金格差に」「離婚したいが経済的に自立できず我慢している女性が多い」「ジャーナリストの伊藤詩織さんや自衛官の五ノ井さんらが実名を公表し、裁判で戦い勝利した」「朝ドラの『虎に翼』を一日に三回も見ている」等、書ききれないほど活発な討論となりました。男性でただ一人参加した方は「カフェに参加して自分がどう変わるか...」と話していたことが印象的だった。この先、全五回のカフェで目の輝きが楽しみです。

(東青支部 工藤哲子)

――訃報――

高杉 さと さん (九十三歳)

2024年5月23日死去されました。

同盟本部常任理事・県本部事務局長を歴任。国賠同盟の発展に尽力されました。心からご冥福をお祈りいたします。

東青支部総会

開かる

国賠同盟東青支部総会が、六月一日アピオあおもりで開催されました。

はじめに、DVD「燃やし続けた炎」を上映。治安維持法犠牲者の証言を、戦争当時の映像をはさみながら、若者の目を通して取材した作品です。

総会は吉田理事の司会で開会。館田支部長の挨拶で、この一年間に亡くなった四名の会員の方々に黙とうをささげ、議長に国井恵子さんを選出し、議事進行に入りました。

二〇二三年度の活動報告と二〇二四年度の運動方針が提案され、次いで決算報告のあと中兼監事から監査報告があり、予算案が提案され、すべての提案事項が採択されました。役員体制で変化があり、事務局長が中野悦子さんから館田支部長が兼務することとなり、会計監査の工藤八千代さんから沢目ミヤさんにバトンタッチされました。

厳しい情勢のもと、国賠同盟の運動はますます重要になりました。署

々行動とともに、会員を増やす運動もより一層工夫をこらして力を入れて取り組んでいく決意をもって総会を終えました。

(東青支部 池辺せつ子)

◆ 総会で選出された役員

- ・支部長兼事務局長 館田 篤廣
- ・副支部長 沢目 亮
- ・会計 池辺 せつ子
- ・理事 松橋 慶子
- 赤平 勇人
- 鎌田 哲成
- 工藤 哲子
- 中野 悦子
- 野坂 峯子
- 細川 弘彦
- 吉田 祥子
- 中兼 洋一
- 沢目 ミヤ
- ・会計監査

第12回 西北支部総会
を終える

六月五日に西北支部総会が開催されました。総会には十四名が参加。討論では、署名を増やす活動や大館での「多喜二祭」参加について発言がありました。

役員選出では、新支部長に花田進さんを選出し、他の役員については昨年同様の方を選出。

新支部長の花田さんは国会請願活動を振り返りながら、「戦争反対の声を増やすために頑張りたい」と挨拶しました。

総会後の学習は、西北五の治安維持法犠牲者について、特に生活

綴方の土岐兼房について、読み合わせ、感想を述べて終了しました。

◆ 総会で選出された役員

- ・支部長 花田 進
- ・理事 大阪 静子
- 野崎 秋子
- ・会計監査 開米 ハギ子
- 平山 亮一
- ・事務局 一戸 信行



絵手紙

柳谷 マサ子 (下北支部)

エッセイ

働く姿を見せたいと思っていました
～大人が働く姿を見て自立していけたらと願って～

教育厚生会「相談室」

工藤 ふみ

私は宿題に「家事労働」を出します。家族として家事を手伝うという事です。たいていは風呂掃除をしたとか、洗剤を洗ったとか、弟や妹の音読を聞いてあげたということもありますし、ミルクを作った飲ませたという事もあります。

そういうことをするうちに、家事の仕事が少し変わってきました。自分の家のレストランだったり、クリーニング屋さんだったり、直接、自分の家族の生活に関わることに気づき働いていくのです。また、母親が一人で働いていることを思いやり、雪かきに頑張る子もいます。もはやお手伝いというより、家族の一員として、生活者として自立していく過程の一步を踏み出していきます。

この様な日記等をクラスで読み合うことが、他の子ども達も自分の暮らしを見つめる一歩となっていくことを願いました。

7/11 ふとしき 5年 萌

今日はふとしきをしました。お父さんは、仕事でおそくなるので、特別にきれいに洗ってあげました。次に、一番でかく、重いふとしきをしました。でも、いつものことなので、軽く感じました。これからもふとし

をして、みんなといっしょに寝たいです。

受け持ったばかりの5年生の時の日記です。お父さんの帰りが遅いことを気にかけ、きれいに布団を敷こうとする健気さがいいです。一緒に寝ようと思うのです。いきなり、家の仕事といっても、できないのだからと思います。

母の代理 6年 里香

今日は父の店に手伝いに行く日だ。ドアを開けて店に入る。

奥の冷蔵庫からチーズを取り出す。こぼさないようにチーズ入れに入る。

次にテーブルに椅子を上げて、軽くほうきで掃く。

今度は丁寧に掃除機をかける。椅子を下ろし、

テーブルにテーブルクロスを並べる。この仕事は、

私が行くとき母の代わりにやる。お客さんたくさん来ればいいなあ。

里香さんには、先天的な病気があります。両親はとても心配して

でも、お父さんの経営しているレストランに手伝いに行き、お母さんのように仕事をしているのです。お父さんのレストランが流行らないと、生活が成り立たないことを知っています。もはやお手伝いではなく、仕事です。生活者としてしっかりとくるのです。

お母さんのかわりに 6年 真

「雪かきしてくるね」

お母さんからかきを借りた。

「おはよう。」

「おはようございます。」

下の家のおじいちゃんに。

スノーブラシをにぎり、

車の屋根に乗っている雪を落とす。

途中でお母さんがきた。

「ありがと。」

この頃、家事労働をやっている

「家事労働やんねえと。」

あわてて言う。

お母さんはエンジンをかけて、

アパートにもどった。

車の雪を落とすと、

次は車の周りだ。

雪べらを持つ。

雪をすくう。

雪捨て場に走っていく。

お母さんが会社へ

すぐ行くようにしなくちゃ。

「やっとなくなった。」

ちょうどその時、

お母さんが降りてきた。

「車、出やすいし。」

と言って、会社に行った。

「雪道大丈夫かなあ。」

と思いつながら、

車を見送った。

真君には父親がいまません。ですから、アパートのほかの住人が雪かきをしてくれる事があるのだそう。でも、自分でしようとして、お母さんの通勤用の車の雪を払い、周りの雪を片付けるのです。6年生だときけるのだと思います。この雪かきをしなくてはという自覚を養いたいと思うのです。

来てくれればよいな 6年 葉月

「はあああ」

母のため息。

「はあああ」

二度目のため息。

この頃何日か、

お客が来なくなっている。

営業局にいた時は、

お客がいつ来ているか。

ただ、

家に床屋さんを開業してからは、

お客があまり来っていない。

一日に一人でもいい。

母の店に

髪を切りに来てくれないかなあ。

この後、学級の方達が葉月さんのお母さんの床屋さんに行きました。私は今でもお世話になっています。